

官民協働の復興まちづくり計画等検討ワークショップ (第1回) 開催!

平成24年2月24日(金)、栗橋地区基幹集落センターで、「官民協働の復興まちづくり計画等検討ワークショップ」の第1回目が開催され、周辺集落の住民約30名が集まり、復興に向けた地域の課題とこれからの解決策を夢を持って語り合いました。「復興かわらばん」第1号では、このワークショップの様子をお伝えし、皆様からどのような意見が出されたかをお知らせします。



発行日：平成24年3月23日 発行：(財)都市農地活用支援センター
作成：NPO風・波デザイン 芝浦工業大学学生有志

19:00スタート

1 ■来賓挨拶

復興庁岩手復興局復興推進官
亀村 幸泰 氏



みなさん方がここで議論された結果が、地域の分化した産業を活かしたまちづくりということで、支えていくことは、大変有効であると思います。

2 ■理事挨拶

(財)都市農地活用支援センター理事
統括研究員 佐藤 啓二 理事



今日は、基礎をつくるワークショップであると思います。皆様方にとっても非常に意味のあるものになってくれるとありがたいですし、その結果が、施策の材料になってくれればと思います。

4 ■アンケート概要の説明

参加者の皆さんには来場時にアンケート様式1と様式2の2つについてアンケートを行いました。ワークショップ進行説明(アイデアマトリックス説明) 芦野 光憲 (財)都市農地活用支援センター計画部次長 首席研究員



お互いの立場は理解しあい、否定はしないようお願い致します。最終的に皆さんの意見をまとめながら進めていきます。私どもは、皆様のご検討の参考となるヒントを差し上げたいと思います。しかし、基本は皆さまのお力です。

3 ■趣旨説明

芝浦工業大学 システム理工学部
松下 潤 教授



5 ■ワークショップ

「まちの良さ再発見」をテーマに、各班ごとに、自己紹介・「今の釜石市栗橋地域・鶴住居地域の良さ」について1人約3分間、計30分間話し合いを進めました。アンケート結果の発表の後、後半は「このまちで生活する上で、絶対に必要なもの、大切なもの」を書いてもらいました。各自に発表してもらい、将来の復興などを話し合い、アイデアマトリックスへ記入して頂きました。

※さあ、ワークショップの結果は!? 次の頁にまとめました。

3つのグループに分かれて話し合いました！

ワークショップで出てきた住民の皆さんのご意見 まとめ

ワークショップ PART1

今の釜石市栗橋・鵜住居地域の良さ

A グループ
(女性3名、男性5名)
鵜住居地域の方が多く
入っているグループ

B グループ
(女性3名、男性5名)
鵜住居・栗橋地域の
混合グループ

C グループ
(女性3名、男性6名)
栗橋地域の方が多く
入っているグループ

凡例
○ よいところ
× 悪いところ

自然

- 海あり山あり
- 恋の峠から見える景色好き
- 水がおいしい
- 白く長い砂浜

- 人口減の中、鵜住居は増えていた
- 人とはなしやすい
- × 次の世代がいらない
- × のってこない若者

食

- 天然資源が多い海の幸
- ワカメ・カキを仮設に持参
- 食べ物がうまい
- 海産物

産業

- 漁に関する特区
- 地域振興券
- × 組合がゆるくないと商売できない
- × 漁協組合の制約きびしい

雇用

- 大槌方面から片岸に降りたときに働く場所(車関係)があった
- × 漁協組合の制約を自由にしたいたい
- × 組合の許しがないと商売できない

インフラ

- 生活でしやすい
- 国道45線沿道
- 病院・学校・銀行・商店があると近くに用事が出来て良い
- 光ファイバー
- 上下水道
- × 農業振興地域 →工場ひっぱりづらい

居住

- 子供にとっては良い環境(海・川・山)

人

- 物々交換 ○人間性が良い
- 地域が協力的
- 様々な考え方ができる
- 人情深い ○犯罪少ない

自然

- 農業体験
- 海と山の体験
- 水(自家用)
- 海から山へ、見て感じられる

雇用

- グリーンツーリズムの手伝いをしていた
- 中心街に飲み屋がある

居住

- 日あたり、風のとおりがよかった

歴史

- 歴史遺産

人

- 地元学
- 本物を伝える
- 海と山に生きてきた人
- インフラ
- エコエネルギー
- 水力、風力発電

食

- 海からとれる幸
- 産業○郷土料理
- A&F(アグリカルチャー&フィッシング)
- 農業体験
- 海と山の体験

自然

- 田んぼ
- 自然が豊か
- きれいな川がある
- 空気がきれい
- 散歩がしやすい
- 散策コース

人

- 人柄がおだやか
- 結束力がある
- 教育機関と地域の密着性
- 小規模校ならではの先生方との交流の深さ
- 地域密着で活動が出来る
- 地域のまとまり

食

- 食材が豊富
- だんご・釜だんご
- 漬け物など野菜を使った保存食がおいしい
- 山菜が豊富(わらび、たららの芽、シドケ、ふき)
- みそ焼き→焼きもち

産業

- 和山牧場
- 橋野地区直売組合(産直、橋野どんぐり広場) →地域活性化の拠点

インフラ

- 風力発電(43)
- 安全
- 橋野発電所(3カ所)
- 水力発電
- 下水道が整備されている
- 小規模小学校がある

歴史

- 郷土芸能がたくさんある
- 神楽・虎舞など
- 遠野物語(約25編の活用)
- 釜石市指定文化財が5つ
- 国史跡指定
- 橋野高炉跡地(世界遺産登録)
- 三浦命助 ○銭座



3つのグループに分かれて話し合いました！

ワークショップで出てきた住民の皆さんのご意見 まとめ

ワークショップ PART2

このまちで生活する上で、絶対に必要なもの、大切なもの。

※枠からはみ出る意見は「薄いピンク地」で囲っています。

Aグループ
(女性3名、男性5名)
鵜住居地域の方が多く
入っているグループ



	住居	交流	生活・産業	交通
組織	・ 居住、医療、福祉の街 ・ 町内会(若返り)多様な世代が入る。	・ (敬老会、スポーツ会)町内会の若返り(若者を会員に入れる)	・ 若い人への伝承 ・ 漁業・協業体	・ 子供達と一緒に乗れるバス
プロモーション	・ 古民家の良さ ・ 「語り」から歴史を伝える。	・ 気軽にお茶が出来る場所(場として) ・ 虎舞(若い人が参加すること) ・ うのすまいの里、時代劇風に	・ 子どもと一緒にできる農業・漁業体験 ・ 親の仕事を手伝う体験	
デザイン	・ 古い建物 ・ 村作り	・ 和山高原の沢などにクリソソ、山野草などを植えて観光スポットに！ ・ 美しい景色・桜並木を遠野の様に堤防に植えたら良い(30年後には花見)	・ 4番バッテリーの存在(産直・福祉) ・ とりまき商店街 ・ ひなん経路のデザイン ・ 自然いっぱい景色	・ チンチン電車 ・ 道路整備(半島)
経済再構築	・ 3世代住居への助成 ・ 若者の定着 ・ 人づくり		・ 製造所小規模なもの(小さい土地でもできる) ・ 地域特産物、農産物でもあれば ・ 遠野から鵜住居まで整備され、中央から企業などが来て、雇用(人)働く場所が出来れば良い	・ 遠野から橋野高炉の近くにトンネルを造り中央からお客さんが見に来て、栗林鵜住居地区が活性化すれば良い



Bグループ
(女性3名、男性5名)
鵜住居・栗橋地域の
混合グループ



	住居	交流	生活・産業	交通
組織	・ 民泊(高台移転)	・ 栗橋を衣食住の後方支援拠点へ	・ 仮設住宅、使用しなくなったフルートレインを合宿所へ・ツリーハウス、あま小屋 ・ 民泊へ合宿(長期)→まち、山、海 ・ オーナー制と指導付き漁業	・ カーステーション ・ 物流基地 ・ モーターキャンプ
プロモーション		・ ツアーを組む(鉄の道、塩の道、命の道) ・ 体験場(漁業体験、施設の充実) ・ 修学旅行・三陸海岸 ・ 三陸人の生き方を言葉とかたちで表現し世界の人に来てもらう ・ ボランティア、防災学習、新村民ツアー(動画で、外からこの地が見られる)	・ 遠野物語・砂浜再生・新渡戸稲造 ・ かたりべを学生がつむいでいく ・ 電気の販売(太陽、水力、風力)	
デザイン	・ 古民家再生 ・ 高層ビルだけではなく一戸建て住宅の高台移転が必要(民泊対応) ・ 復興の住宅を建てるにあたり1部屋は民泊する部屋をつくる(交流のまちづくりのデザインをする) ・ 持続可能で多様性のある村づくり ・ 海岸に避難ビルの建設 ・ 芸術、文化の村作り、デザイン性のある村作り。	・ 本物体験 ・ ラグビーのまちづくり ・ 特産品(開発)・食品交流 ・ 宮沢賢治、三浦命助	・ 自然のなかに新エネルギーと共助の生き方に。 ・ 避難道を階段状にし、客席にして野外ステージとして利用・各地域にデザイン性をもたせる・はせば ・ クラブハウスをつくる。人の集まる場所として利用 ・ 地域ビジネス育て・被災の避難(みんなが集まる空間)	・ 人の来る空間
経済再構築		・ 修学旅行 ・ 梅崎茶屋 ・ 姉妹都市との交流	・ 自然を利用した新エネルギー ・ 海、山の幸が地域ビジネスとして拡大していけば若者の雇用拡大に寄与する ・ 地域ビジネス・漁業をする村作り	・ シャトルバス・ツアーでまわるバス ・ バス等の乗り合いシステム(半分荷物、半分人に乗せる) ・ 相互乗り入れが可能な交通手段



Cグループ
(女性3名、男性6名)
栗橋地域の方が多く
入っているグループ



	住居	交流	生活・産業	交通
組織	・ 安心して地域の人達が共同生活できる場=施設 ・ いこいのカフェ	・ 姉妹都市(小さい単位) ・ 体験民泊村(教育旅行の導入) ・ 体験メニューの開発	・ 海と山の交流 ・ 農協が合併するとやりやすい	
プロモーション	・ ドッグラン ・ ペットランド	・ 文化財の共有→発信 ・ 林業体験(グリーンツーリズム) ・ 山菜採り体験 ・ 郷土芸能祭と郷土料理を楽しむイベント ・ 自慢大会	・ 市民農園 ・ ラーメン横丁 ・ 釜石特産漬物セット発送	・ 内陸との交流
デザイン	・ 桜並木 ・ 古民家の活用 ・ 職場、住居別々(ベッドタウン)	・ 鉄人28号(シンボル) ・ トライアスロン復活 ・ 散歩道	・ 学校誘致	・ 内陸から簡単にこれるように(道路整備) ・ 飛行場を造る
経済再構築		・ 姉妹都市を結んだ都市から学生インターンシップを受け入れ、漁業・農業体験をさせたい	・ メガソーラー導入 ・ 特産品開発 ・ 山の幸海の幸合併して産直をつくる ・ 風・水・太陽光の電気エネルギー活用	



6 ■発表

各班に5分ずつ発表してもらいました。



「若返り」がキーワード！ツーリズムの担い手としての虎舞など伝統文化に若い人の参加は必要不可欠。また、子どもと一緒にできる農業・漁業の体験も事業化したい！

A グループの発表



「本物体験」のできる、ツアーをやりましょう！鉄の道、塩の道をメニュー化し、三陸人の生き方を言葉とかたちで表現し世界の人に来てもらいたい！

B グループの発表



体験民泊が良いのではないかと！体験メニューを豊富に揃えてみよう。また、「鉄人28号」を実物大でつくって鉄の町をPRするのも面白い。内陸からのアクセス整備も重要。

C グループの発表



7 ■総括 松下 潤 教授より

地域の皆さんの熱心な討論をよい計画づくりに繋げましょう。

今回は、皆さまのアイデアやこれまでの活動成果をもとに討議を深めていきたいと思えます。

終わりに、松下先生から参加者の皆さんにサプライズなプレゼント！尺八の演奏で和やかな雰囲気ワークショップ終了しました。



21:10 終了 おつかれさまでした！

次回のお知らせ

復興事例研究とそのマッチングを考えてみよう。

今回は、文化・自然・産業を活かしたまちづくり事例を見ながら、皆さんの地区の将来をどのように描いていかご意見を出し合うワークショップとなります。

ぜひ、次回の参加もお待ちしております！

(平成24年6月～7月開催開催を予定しております)

鶴住居、栗橋地域ほかご参加のみなさまどうもありがとうございます。

復興かわらばん 第1号 平成24年3月23日 発行
復興かわらばん作成：NPO風・波デザイン 芝浦工業大学有志

主催者・協力団体

- 復興庁岩手復興局復興推進官
- (財)都市農地活用支援センター理事 統括研究員
- (財)都市農地活用支援センター計画部次長 首席研究員
- 芝浦工業大学システム理工学部教授
- JAいわて花巻
- オガール紫波株式会社 事業部長
- NPO法人 風・波デザイン 代表運営委員
- NPO法人 風・波デザイン コーディネーター
- NPO法人 風・波デザイン・新潟大学 客員准教授
- 独立行政法人都市再生機構
- 釜石市職員

- 亀村幸泰
- 佐藤啓二
- 芦野光憲
- 松下 潤
- 伊藤牧子
- 岡崎正信
- 丸山佑介
- 森田麻里
- 宮崎道名
- 山崎孝之
- 菊池公男
- 洞 博
- 伊藤浩二
- 菊池優実江
- 有馬沙名瑛
- 垣田良子

東北芸術工科大学
芝浦工業大学

会場の様子

皆さん、熱心に議論を交わされていました。

おつかれさまでした！

参考資料：参加者の皆さんからのアンケートの分析

アンケート様式1 「釜石市栗橋・鶯住居地域」 復興まちづくりアンケート結果

様式1 問2 栗橋・鶯住居地域についてお答え下さい

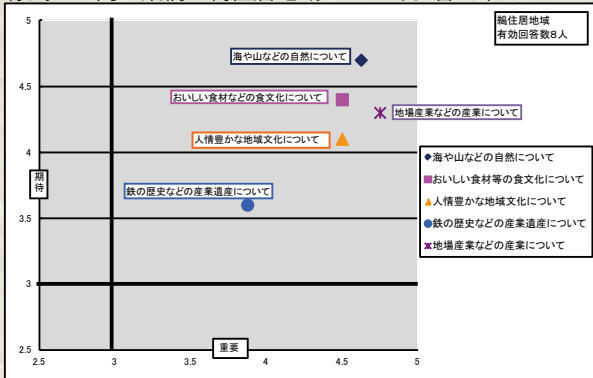


図1 鶯住居地域について

目的：栗橋・鶯住居地域の方々が復興を進めていく上でどのように考えているかを把握する

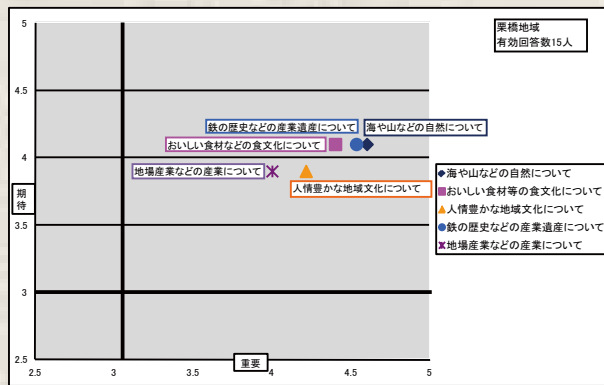


図2 栗橋地域について

様式1 問4 グリーンツーリズムをきっかけとした復興に何が必要だと思いますか

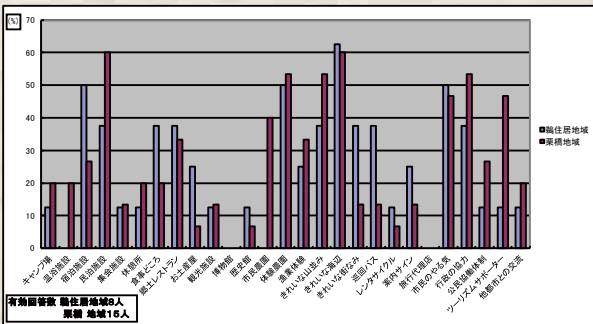


図3 グリーンツーリズムを用いた復興に必要と思うもの

必要物ランキング	栗橋地域		鶯住居地域	
	件数	割合	件数	割合
1	民泊施設	60%	きれいな海辺	63%
2	きれいな海辺	60%	宿泊施設	50%
3	体験農園	53%	体験農園	50%
4	きれいな山並み	53%	市民のやる気	50%
5	行政の協力	53%	民泊施設	38%

図4 グリーンツーリズムを用いた復興に必要と思うものランキング

様式1 問5 復興まちづくりには、栗橋・鶯住居地域に震災前からの良さを活かして、中長期点に発展するまちづくりが必要だと思います。震災前からの良さの中長期展望について、当てはまる番号を選び○をつけてください。

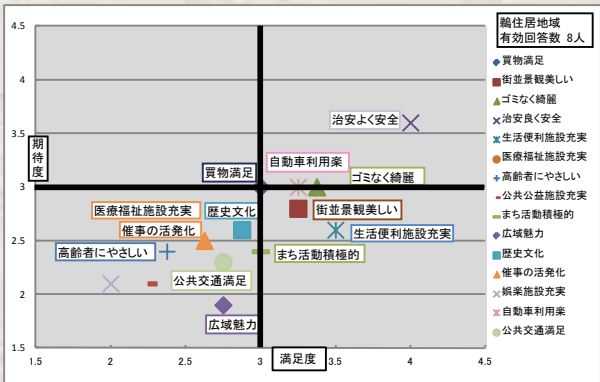


図5 鶯住居地域の震災前の満足度とこれからの期待度

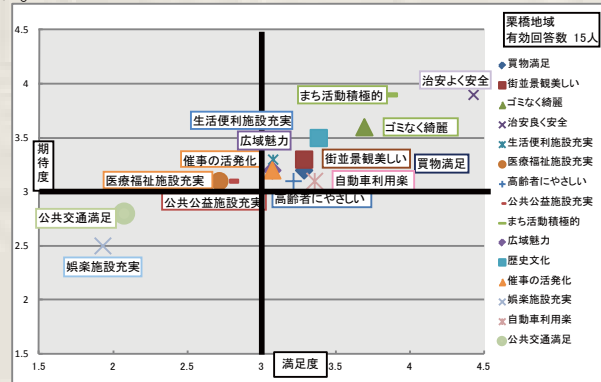


図6 栗橋地域の震災前の満足度とこれからの期待度

アンケート様式2

目的：今回のワークショップ原則に沿って進められているのか検証するため

凡例
 5 思う
 4 やや思う
 3 どちらでもない
 2 あまり思わない
 有効回答数 23人

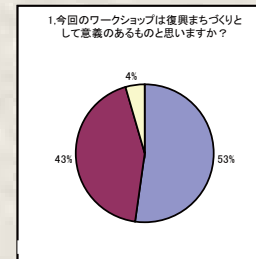


図7 今回のワークショップの意義について

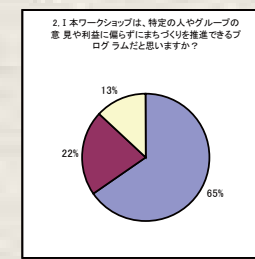


図8 今回のプログラムについてI

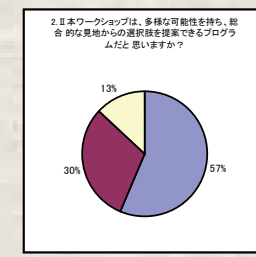


図9 今回のプログラムについてII

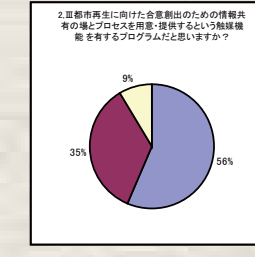


図10 今回のプログラムについてIII

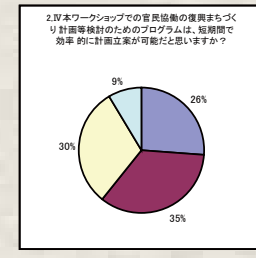


図11 今回のプログラムについてIV

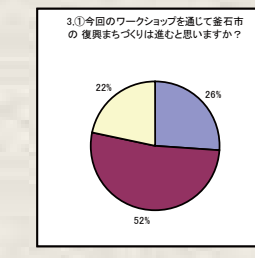


図12 ワークショップについて①

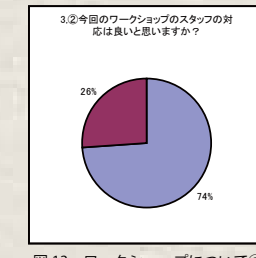


図13 ワークショップについて②

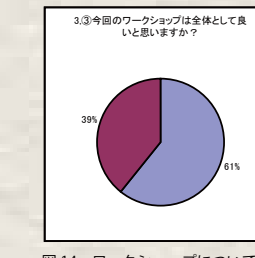


図14 ワークショップについて③

今回解析した方法は、「都市再生整備計画における課題把握の手法に関する研究：プロモーション・リサーチ手法」(日本都市計画学会第41回学術研究論文2006年 芦野光憲、浅野光行) 他に基づく

ご協力ありがとうございました！！